

平成20年3月期 決算説明会資料

平成20年5月29日（東京）

平成20年5月30日（大阪）

石原薬品株式会社

（大証二部 4462）

目 次

➤ 決算の概要

- 平成20年3月期の実績及び概要
- 営業の状況
- 営業品目別売上高3期比較
- 平成21年3月期の業績予想
- 次期の見通し
- 中長期経営計画について
- 営業品目別売上高推移
- 経営の基本方針、目標とする経営指標等

➤ 決算の詳細

- 損益計算書の概要
- 売上高の四半期推移
- 製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移
- 貸借対照表の概要
- キャッシュフロー計算書の概要
- 営業品目区分の変更
- 研究開発人員と研究開発費
- キャッシュ・フローと設備投資額の推移
- 総資産・純資産・自己資本当期純利益率の推移
- EPS（1株当たり当期純利益）BPS（1株当たり純資産）

➤ 新技術、新製品開発の状況

- 技術開発、製品開発の進捗

《参考資料》

- ・ 製品紹介

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。
- 当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいりますが、本資料記載の業績見通しのみにも全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。
- なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願い致します。

決算の概要

代表取締役社長 竹森 莞爾

平成20年3月期実績及び概要

(単位：億円、%)

	平成19年3月期		平成20年3月期				修正計画	修正計画との差異
	年間	伸率	上期	下期	年間	伸率	金額	差額
売上高	151.1	0.7%	81.4	78.4	159.8	5.7%	165.0	-5.2
営業利益	18.3	1.5%	7.7	8.1	15.8	-13.5%	17.3	-1.5
経常利益	18.8	1.9%	7.9	8.1	16.0	-14.8%	17.8	-1.8
当期純利益	11.5	3.5%	4.9	4.0	8.9	-21.9%	10.8	-1.9
1株当り当期純利益 (円)	155.00		66.82	54.28	121.10			

《概要》

増収減益

増収： ニッケル超微粉中心に全般として商品が伸び、製品が伸び悩んだ。

減益： ① 販売品目構成の変化による。(全体の売上総利益率下がる)

② 原材料高による原価アップ

③ 円高による輸出売上の目減り、売掛金の為替差損発生

④ 研究開発費中心による販管費の伸び

営業の状況

▶ 電子関連分野 … 売上高 98.0億円（前年同期 90.0億円 8.9%増） 売上構成比 61.3%

世界市場での薄型テレビ、パソコン、携帯電話の市場拡大及び自動車の電装化の進展を背景に電子部品、半導体、液晶パネルの拡大基調が続いたものの、国内市場の成熟化に加え、供給能力拡大によりDRAM等の半導体価格が下落、市況の悪化が見られた

(1) 金属表面処理剤及び機器等 … 売上高 61.8億円（前年同期 61.4億円 0.7%増）

電子部品用外装めっき液（IC・チップ部品・コネクタ等）

鉛フリー化は、国内、海外ともほぼ一段落し、既存ユーザー生産ラインの補充分の確保、他社介入の防止、液晶関連のCOF対応めっき液、半導体のフリップチップ化に対応したバンプめっき液の拡販に取り組んだが、国内向けは微増、海外向けは、わずかに前年を下回る結果となった

化成処理液自動管理装置及び試薬等

プラスチックICパッケージ基板向け、プリント基板向けを中心に納入実績を上げ、デバイス、フォトマクス等の新たな市場開拓及びランニング用試薬の拡販にも取り組んだ

(2) 電子材料 … 売上高 36.1億円（前年同期 28.6億円 26.5%増）

ニッケル超微粉（対前年36.5%増）

用途となるセラミックコンデンサの生産が薄型テレビやパソコン等製品需要に支えられ、大幅な伸びを示し、ニッケル超微粉の需要も高水準となった

機能材料加工品等（対前年15.3%減）

需要先の半導体製造装置及び液晶製造装置業界の受注が低下傾向を示す中、部品需要も低調に推移

▶ 自動車用品分野 … 売上高 15.5億円（前年同期 15.3億円 1.7%増） 売上構成比 9.8%

カーアフターマーケットの厳しい環境の中、カーメーカー向けのエアコン消臭剤や板金補修工場向け補修用コンパウンドなど業務用自動車ケミカル中心に拡販、溶接関連は、対応する造船、建機など需要が好調

▶ 工業薬品分野 … 売上高 46.2億円（前年同期 45.8億円 0.8%増） 売上構成比 28.9%

製鉄所向け鋼板用薬剤等は稼動状況を受け使用量が増加、建材関係は需要低調、産廃、臭気対策等の薬剤は好調に推移

営業品目別売上高3期比較

(単位：億円、%)

	平成19年3月期		平成20年3月期		平成21年3月期 (予想)		差異
製品 金属表面处理剤及び機器等	56.1	37.1%	54.8	34.3%	57.9	34.8%	3.1
電子材料	5.5	3.6%	4.6	2.9%	5.0	3.0%	0.4
電子関連分野 計	61.6	40.7%	59.4	37.2%	62.9	37.9%	3.5
自動車用化学製品等	11.3	7.5%	11.3	7.1%	12.1	7.3%	0.8
工業薬品	1.6	1.0%	1.5	0.9%	1.4	0.8%	-0.1
製品合計	74.4	49.2%	72.3	45.2%	76.4	45.9%	4.1
商品 金属表面处理剤及び機器等	5.3	3.5%	7.0	4.4%	7.5	4.5%	0.5
電子材料	23.1	15.3%	31.5	19.7%	33.0	19.8%	1.5
電子関連分野 計	28.4	18.8%	38.5	24.1%	40.5	24.3%	2.0
自動車用化学製品等	4.0	2.7%	4.2	2.7%	4.3	2.6%	0.1
工業薬品	44.3	29.3%	44.7	28.0%	45.1	27.0%	0.4
商品合計	76.7	50.8%	87.5	54.8%	89.9	54.1%	2.5
合計	151.1	100.0%	159.8	100.0%	166.4	100.0%	6.6

尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

平成21年3月期の業績予想 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：億円、%)

	平成20年3月期 (実績)						平成21年3月期 (予想)						
	1/4	2/4	3/4	4/4	年間	伸率	1/4	2/4	3/4	4/4	年間	伸率	
売上高	39.5	41.9	39.7	38.7	159.8	5.7%	38.1	43.9	42.4	42.0	166.4	4.1%	
営業利益	3.3	4.4	3.8	4.3	15.8	-13.5%	2.7	4.6	4.7	4.7	16.7	5.3%	
経常利益	3.6	4.4	3.9	4.1	16.0	-14.8%	2.7	4.6	4.6	4.7	16.6	3.3%	
当期純利益	2.1	2.8	2.5	1.5	8.9	-21.9%	1.7	2.8	2.8	2.8	10.1	12.4%	
1株当り当期純利益 (円)	/					121.10	/					136.12	/
1株当り配当額 (円)	/					36	/					36	/

尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

次期の見通し

▶電子関連分野

薄型テレビ、パソコン、携帯電話等のセット製品及び関連デバイスは拡大、各セット製品とも先進国市場の成熟化と新興国市場での普及率の高まりにより、市場拡大を狙う。北京五輪に向けたセット製品の伸びが期待され、五輪後に季節的な調整に入ると見られるが、民生機器、白物家電、パソコン、自動車等半導体搭載製品の間口は拡大、半導体フラットパネルディスプレイ等電子デバイスの伸びが見込まれる。

(1) 電子部品用外装めっき液

国内、海外市場のユーザーのめっきライン補充分売上確保、他社介入の防止、チップ部品用めっき液、液晶関連のCOF対応めっき液、フリップチップ化に対応したパンプめっき液の拡販に注力

(2) 化成処理液自動管理装置及び試薬等

高機能プリント基板生産メーカー向けの装置、自動車用樹脂めっき部品用途向けの装置の拡販、光学フィルムやフォトマスク生産メーカー向けの装置の開発と市場投入、定期メンテナンスの実施、ランニング用試薬の拡販により売上を拡大

(3) 電子材料

ニッケル超微粉は、安定的な売上確保
機能材料加工品については、半導体製造装置の市場環境、液晶製造装置業界ともに厳しい状況にあり新たな販売先の開拓、新たな分野の需要開拓に取り組む

▶自動車用品分野

業務用自動車ケミカル品のエアコン洗浄剤、整備ケミカル、自動車補修用コンパウンドを中心に、新しい販路の開拓により拡販に取り組む。

▶工業薬品分野

現有の鉄鋼、化学、環境、リサイクル関連の他、新規性の高い商材活用による新規市場への展開により売上拡大をはかる。

中長期経営計画について（平成20年度～平成22年度予想）

《 基本的な取り組み方針 》 . . .

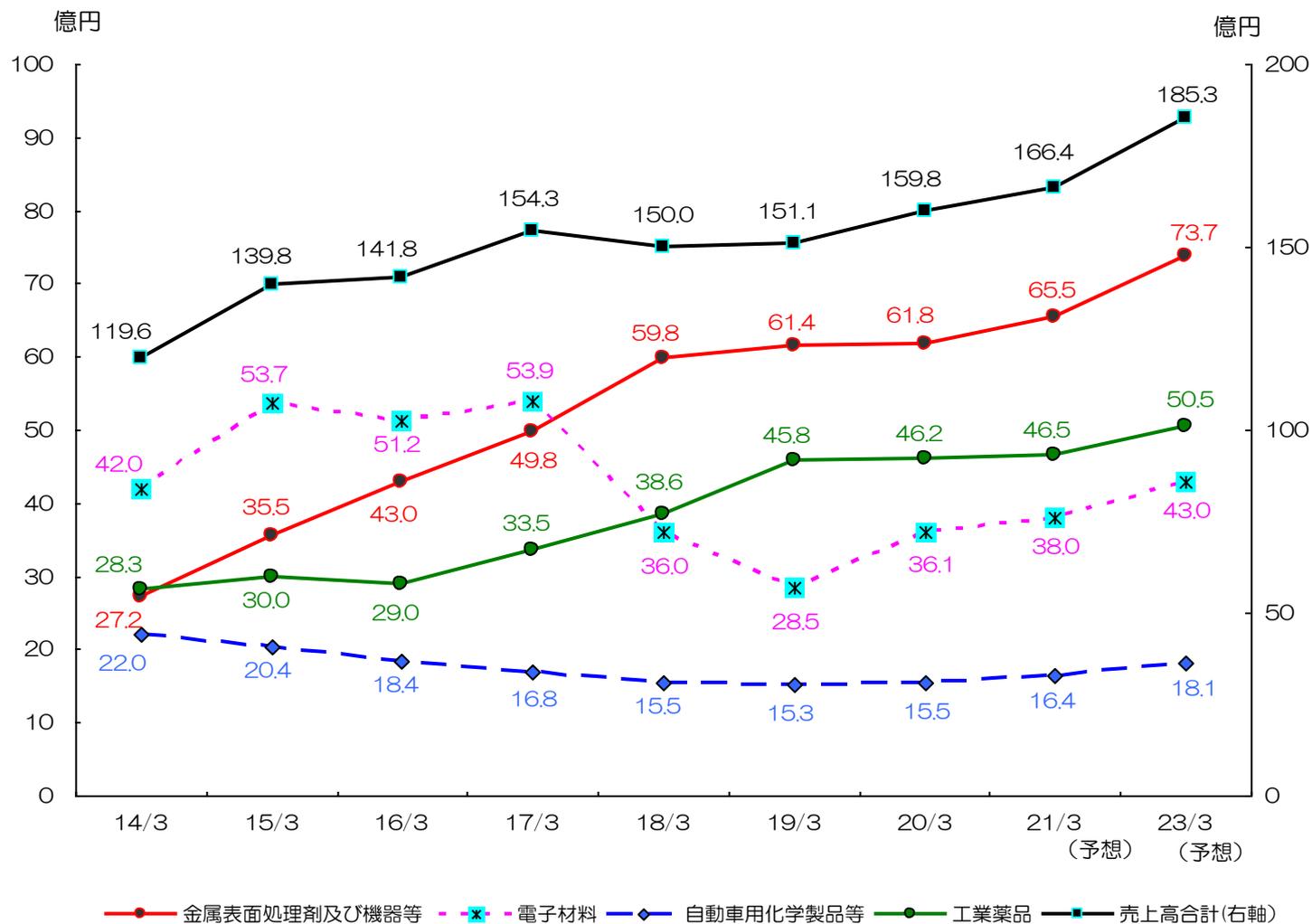
- (1) 新製品開発、新技術開発のため研究開発投資を積極的に行う。
- (2) 基礎となる3つの分野（電子関連分野・自動車用品分野・工業薬品分野）と4つの事業（電子関連分野における金属表面処理剤及び機器等・電子材料・自動車用化学製品等・工業薬品）をバランスよく展開し、各々の事業の収益力を高め、その総体として会社の業績の伸長をはかる。
- (3) 自社製品比率を高め、売上総利益の拡大をはかり収益力の高い会社を目指す。
- (4) 電子材料関連分野を重点開発分野と位置づけ第5の事業を育成する。

《 目標 》

	平成19年3月期		平成20年3月期		平成21年3月期		平成23年3月期	
	実績	(構成比)	実績	(構成比)	予想	(構成比)	予想	(構成比)
製品売上高	74.4億円	(49.2%)	72.3億円	(45.2%)	76.4億円	(45.9%)	86.0億円	(46.4%)
商品売上高	76.7億円	(50.8%)	87.5億円	(54.8%)	90.0億円	(54.1%)	99.3億円	(53.6%)
計	151.1億円		159.8億円		166.4億円		185.3億円	
営業利益	18.8億円		16.0億円		16.7億円		20.7億円	
経常利益	11.5億円		8.9億円		16.6億円		20.9億円	
売上高経常利益率	12.5%		10.1%		10.0%		11.3%	

尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

営業品目別売上高推移



尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

経営の基本方針、目標とする経営指標等

《 経営の基本方針 》

当社は自己開発・商品開発・市場開発の「3つの開発」を企業理念とし、ニッチ市場といわれる事業分野で高い市場占有率を維持し、基幹となる3つの分野で事業をバランスよく展開し、各々の収益力を高め、総体として会社の業績の伸長をはかる。

このような事業活動を通じて常に新しいニーズの創造・発掘に取り組み、会社の発展を通じて、株主・取引先・従業員など関係各位の信頼と期待に応え、社会に貢献していく。

⇒ 企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に努める。

《 目標とする経営指標 》

- (1) 自社製品の売上拡大により、製品売上高の構成比50%以上を維持し売上総利益の拡大をはかる。
- (2) 売上高経常利益率10%以上を維持する。
- (3) ROE（自己資本当期純利益率）・EPS（1株当たり当期純利益）の向上をはかる。

《 利益配分の基本方針 》

- (1) 業績に裏付けられた安定的、継続的な配当を基本とする。
- (2) 研究開発や新事業、新技術開発など将来の企業価値を高めるための投資に優先して充当する。

《 配当の推移 》

平成15年3月期	平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期 (予想)
15.00円	22.50円	34.00円	36.00円	36.00円	36.00円	36.00円

決算の詳細

常務取締役 浅野 真司

損益計算書の概要

(単位：百万円)

(1) 売上高 … 865百万円増

製品売上 … 216百万円減

商品売上 … 1082百万円増

(2) 売上総利益 … 143百万円減

売上総利益率改善

30.3% → 31.0% → 28.5%

(H18.3期) (H19.3期) (H20.3期)

売上構成の変化

製商品割合	製品	商品
H20.3期	45.2%	54.8%
H19.3期	49.3%	50.7%
H18.3期	48.8%	51.2%

売上総利益率	製品	商品
H20.3期	54.1%	7.2%
H19.3期	55.6%	7.2%
H18.3期	54.6%	7.1%

(3) 販売費及び一般管理費

… 103百万円増

人件費 … 16百万円

依頼試験費 … 29百万円

リース料、減価償却費 … 26百万円

研究消耗材料 … 6百万円

支払手数料 … 11百万円

その他 … 15百万円

	平成19年3月期		平成20年3月期		増減金額
	金額	構成比	金額	構成比	
売上高	15,118	100%	15,983	100%	865
売上原価	10,426	69.0%	11,434	71.5%	1,008
売上総利益	4,692	31.0%	4,548	28.5%	△ 143
販売費及び 一般管理費	2,860	18.9%	2,963	18.6%	103
営業利益	1,831	12.1%	1,585	9.9%	△ 246
営業外利益	93	0.6%	111	0.7%	17
営業外費用	40	0.2%	90	0.5%	50
経常利益	1,885	12.5%	1,606	10.1%	△ 278
特別利益	1	0.0%	3	0.0%	2
特別損失	18	0.1%	170	1.1%	152
税引前 当期純利益	1,868	12.4%	1,439	9.0%	△ 429
法人税等	718	4.8%	540	3.4%	△ 177
当期純利益	1,150	7.6%	898	5.6%	△ 251

売上高の四半期推移

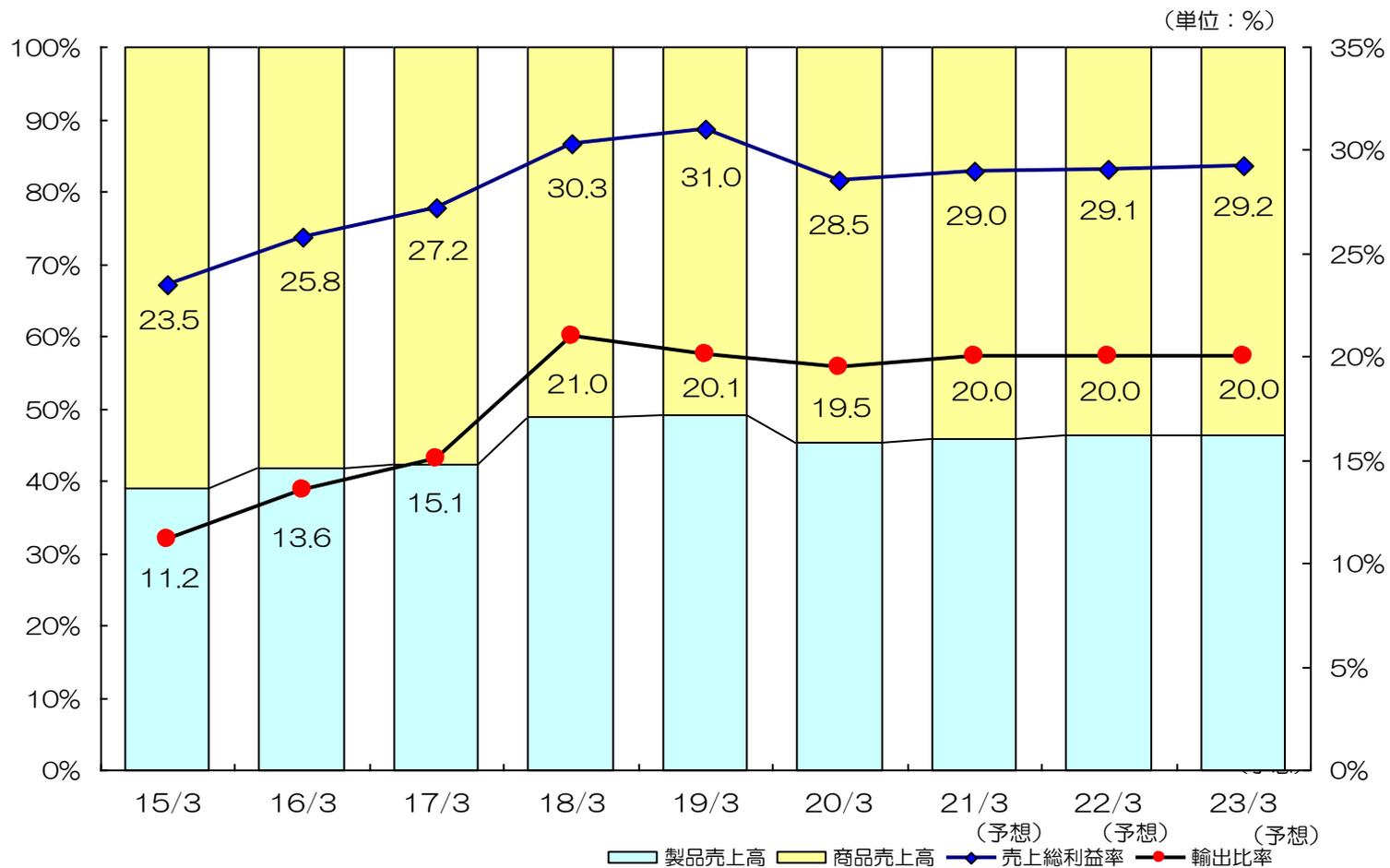
(単位：億円)

平成19年3月期（実績）	1/4	2/4	3/4	4/4	年間合計
金属表面処理剤及び機器等	15.4	15.9	16.1	14.0	61.4
電子材料	6.5	6.4	7.6	8.1	28.6
自動車用化学製品等	4.0	4.0	3.9	3.4	15.3
工業薬品	10.1	11.9	11.3	12.5	45.9
合計	36.0	38.2	38.9	38.1	151.1

平成20年3月期（実績）	1/4	2/4	3/4	4/4	年間合計
金属表面処理剤及び機器等	13.7	16.2	15.8	16.2	61.8
電子材料	9.3	9.9	9.2	7.8	36.1
自動車用化学製品等	4.2	3.9	3.7	3.8	15.6
工業薬品	12.4	11.9	10.9	11.0	46.2
合計	39.6	41.8	39.6	38.8	159.8

平成21年3月期（予想）	1/4	2/4	3/4	4/4	年間合計
金属表面処理剤及び機器等	14.9	16.7	17.1	16.8	65.5
電子材料	8.9	10.8	9.3	9.0	38.0
自動車用化学製品等	4.0	4.1	4.2	4.1	16.4
工業薬品	10.3	12.3	11.7	12.2	46.5
合計	38.1	43.9	42.3	42.1	166.4

製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移



尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

貸借対照表の概要

(単位：百万円)

主な資産・負債の増減内容

(1) 現預金 … 177百万円減

(2) 売上債権 … 151百万円増

(3) 棚卸資産 … 310百万円増

商品 … 384百万円増

(ニッケル 安定供給対応)

製品、原材料 … 78百万円減

(4) 有形固定資産 … 118百万円減

設備投資額 … 130百万円

減価償却費 … 252百万円

(5) 投資その他資産 … 655百万円減

投資有価証券 … 1,079百万円減

流動資産への振替 … 810百万円

その他(評価損、運用、償還) … 269百万円減

(6) 仕入債務 … 576百万円増

(7) その他流動負債 … 350百万円減

(未払金、未払法人税等)

	平成19年3月期	平成20年3月期	増減金額
(資産の部)			
流動資産	8,139	9,225	1,086
現預金	2,815	2,637	△ 177
売上債権	4,309	4,460	151
有価証券	-	810	810
棚卸資産	866	1,176	310
その他	148	139	△ 8
固定資産	9,020	8,255	△ 765
有形固定資産	2,892	2,774	△ 118
無形固定資産	6	14	8
投資その他の資産	6,121	5,466	△ 655
資産合計	17,159	17,480	320
(負債の部)			
流動負債	3,958	4,153	195
仕入債務	2,949	3,526	576
1年以内返済予定 長期借入金	88	57	△ 31
その他	920	570	△ 350
固定負債	340	311	△ 29
長期借入金	32	6	△ 26
その他	308	305	△ 3
負債合計	4,299	4,465	165
(純資産の部)			
純資産合計	12,860	13,015	155
負債・純資産合計	17,159	17,480	320

キャッシュフロー計算書の概要

現金及び現金同等物の増加 …… $\Delta 177$ 百万円 (期末残高 2,628百万円)

(1) 営業活動によるキャッシュフロー …… 1,057百万円

利益 1,439百万円、減価償却費 252百万円、売上債権増加 $\Delta 151$ 百万円

棚卸資産増加 $\Delta 310$ 百万円、仕入債務増加 $\Delta 576$ 百万円、法人税等支払 755百万円等

(2) 投資活動によるキャッシュフロー …… $\Delta 871$ 百万円

投資有価証券取得による支出 $\Delta 1,148$ 百万円、売却・償還による収入 450百万円等

(3) 財務活動によるキャッシュフロー …… $\Delta 326$ 百万円

長期借入金の返済による支出 $\Delta 107$ 百万円、配当金支払 $\Delta 268$ 百万円等

(単位：百万円)

	平成19年3月期	平成20年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,171	1,057
投資活動によるキャッシュ・フロー	$\Delta 1,021$	$\Delta 871$
財務活動によるキャッシュ・フロー	$\Delta 370$	$\Delta 326$
現金及び現金同等物の増減額	$\Delta 226$	$\Delta 177$
現金及び現金同等物の期首残高	3,032	2,806
現金及び現金同等物の期末残高	2,806	2,628

営業品目区分の変更

平成20年3月期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）より、営業品目区分を以下の通りに変更致しました

旧		新	
区分	主要品目	区分	主要品目
金属表面処理剤	電子部品用外装めっき液 溶接用処理剤等	金属表面処理剤及び機器等	電子部品用外装めっき液 化成処理液自動管理装置及び試薬等
電子材料及び機器	機能材料加工品 化成処理液自動管理装置及び試薬等 ニッケル超微粉	電子材料	機能材料加工品 ニッケル超微粉
自動車用化学製品	自動車用化学製品	自動車用化学製品等	自動車用化学製品 溶接用処理剤等
工業薬品		工業薬品	

研究開発人員と研究開発費

(単位：人)

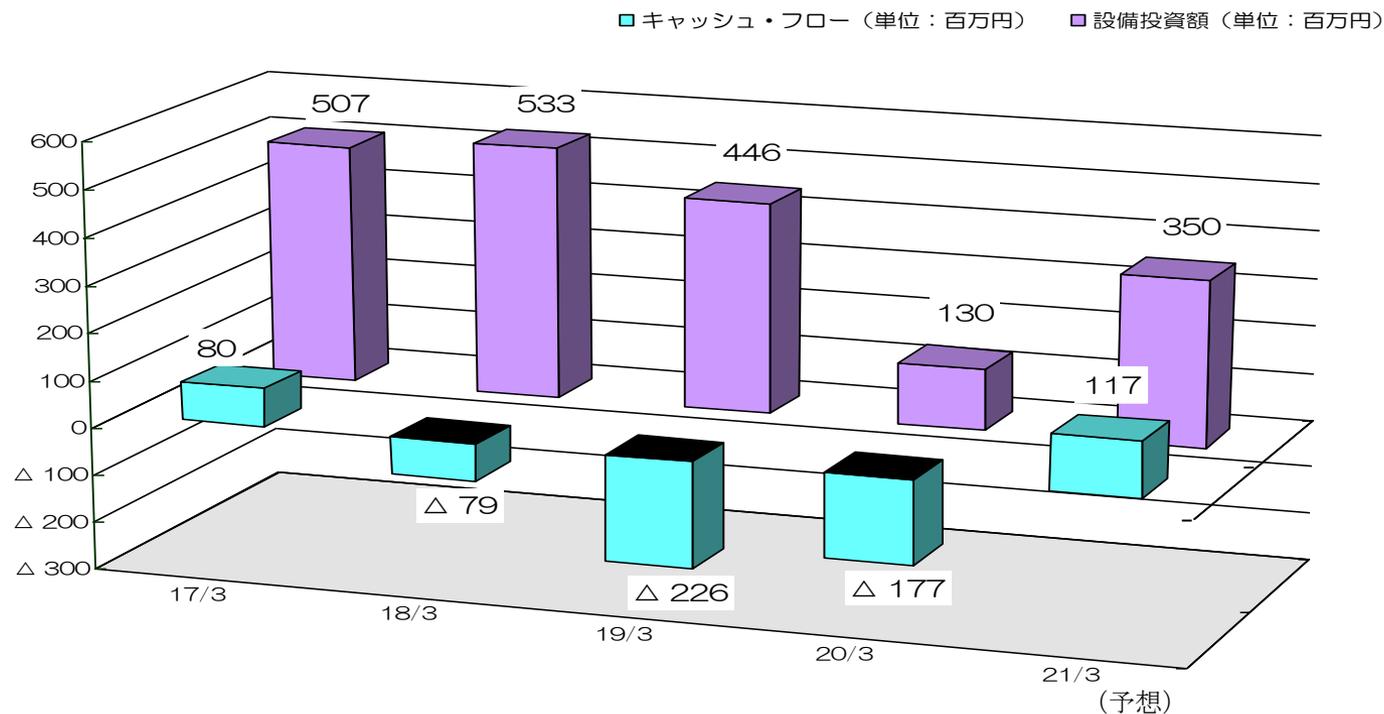
	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3 (予想)
従 業 員	152	161	180	182	178	186
研究開発人員	37	43	53	55	58	62
割 合	概ね1/4が研究開発要員 ⇒ 1/3へ					

(単位：百万円)

研究開発費	495	559	639	680	724	850
研究開発用設備取得 (リース資産も含む)	30	50	54	104	111	130

キャッシュ・フローと設備投資額の推移

		17/3	18/3	19/3	20/3	21/3 (予想)
【Cash Flow】	キャッシュ・フロー	80	△ 79	△ 226	△ 177	117
【Capital Investment】	設備投資額	507	533	446	130	350
【Depreciation Expenses】	減価償却費	196	213	239	252	300



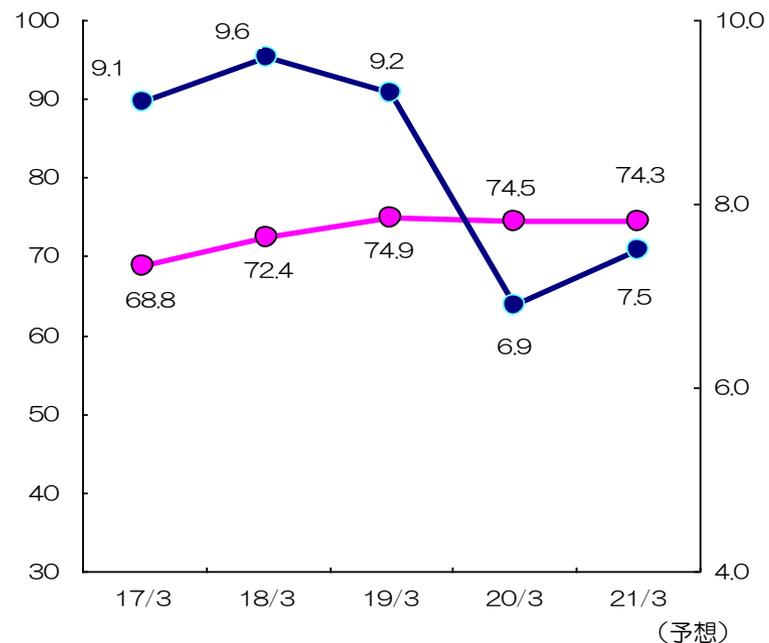
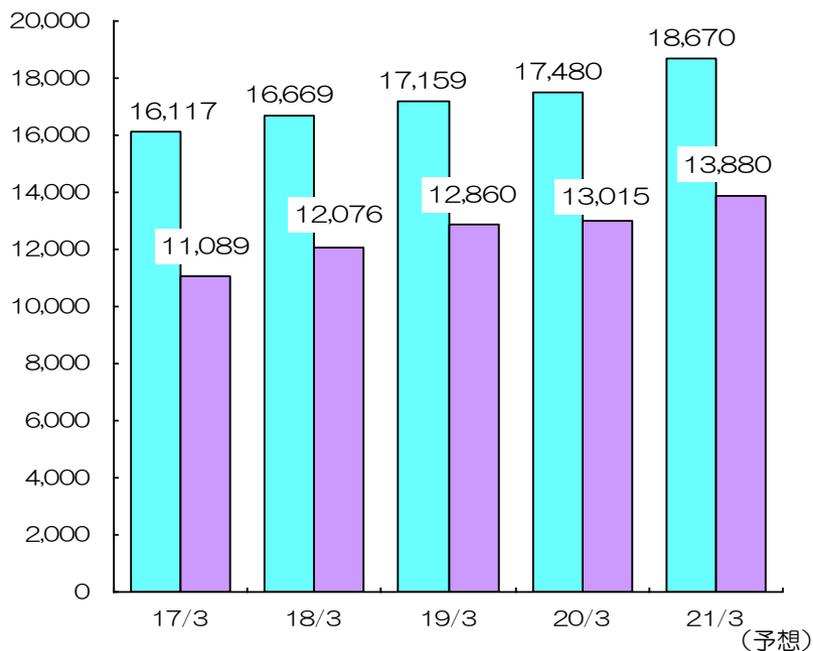
尚、予想数値は要注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

総資産・純資産・自己資本当期純利益率の推移

単位:百万円、%

		17/3	18/3	19/3	20/3	21/3 (予想)
【Total Assets】	総資産 (単位:百万円)	16,117	16,669	17,159	17,480	18,670
【Shareholders Equity】	純資産 (単位:百万円)	11,089	12,076	12,860	13,015	13,880
【ROE】	自己資本当期純利益率(単位:%)	9.1	9.6	9.2	6.9	7.5
【% of Shareholders Equity】	自己資本比率 (単位:%)	68.8	72.4	74.9	74.5	74.3

■ 総資産 (単位:百万円) ■ 純資産 (単位:百万円) ● 自己資本比率 (単位:%) ● 自己資本当期純利益率(単位:%)



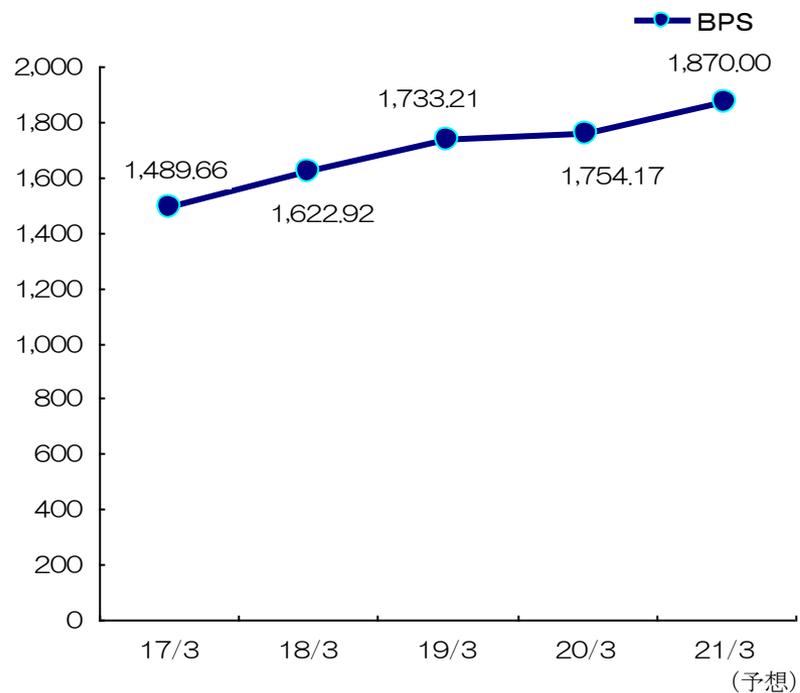
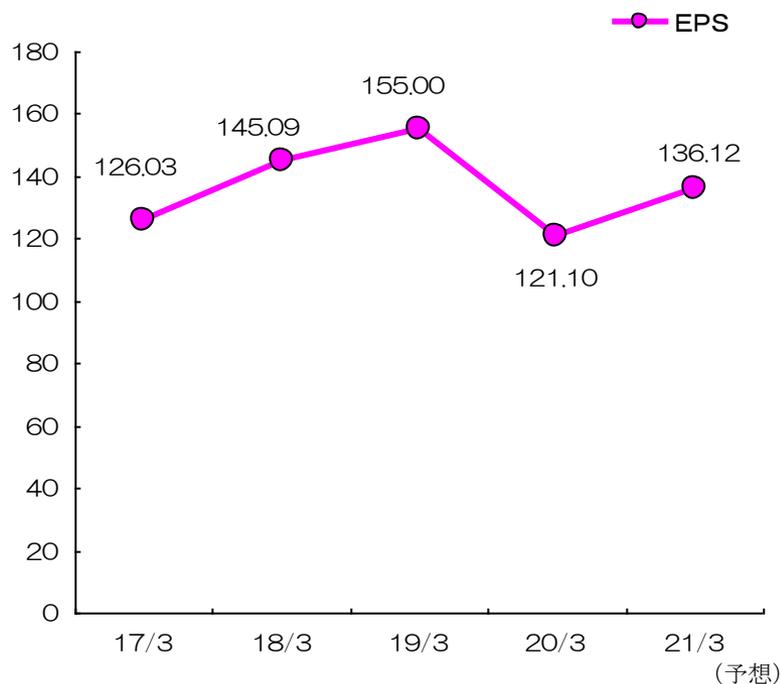
尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

EPS・BPS

1株当たり当期純利益・1株当たり純資産

単位:円

		17/3	18/3	19/3	20/3	21/3 (予想)
EPS	1株当たり当期純利益	126.03	145.09	155.00	121.10	136.12
BPS	1株当たり純資産	1,489.66	1,622.92	1,733.21	1,754.17	1,870.00



尚、予想数値は注意事項ですので、お取り扱いには注意下さい。

新技術・新製品開発の状況

- 技術開発、製品開発の進捗

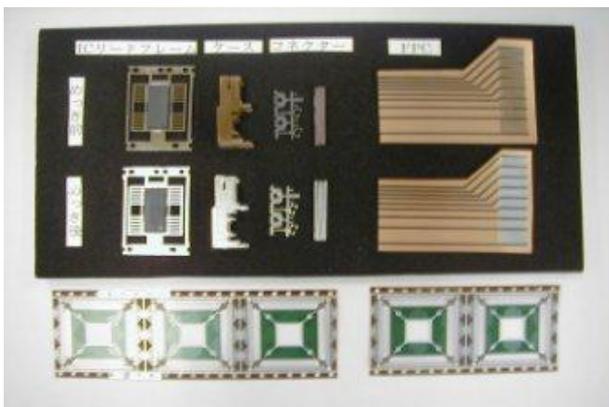
代表取締役専務 時澤 元一

《參考資料》

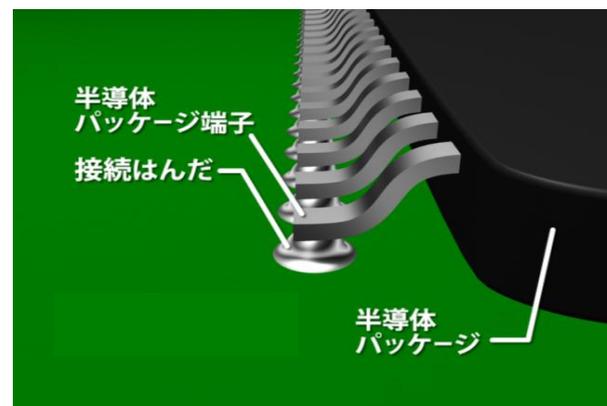
製品紹介

金属表面処理剤

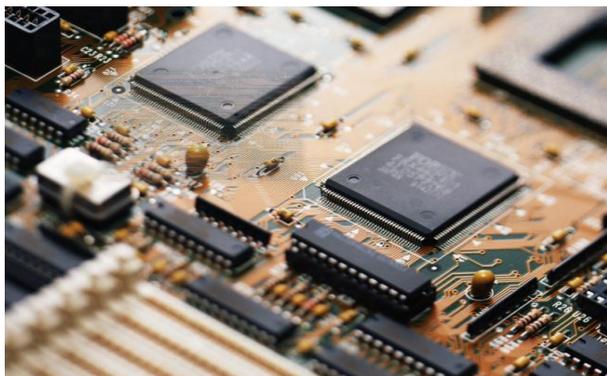
リードフレーム・TAB



半導体リードフレームとめっき



めっきした電子部品を実装したプリント基板



電子部品



IC



コンデンサ



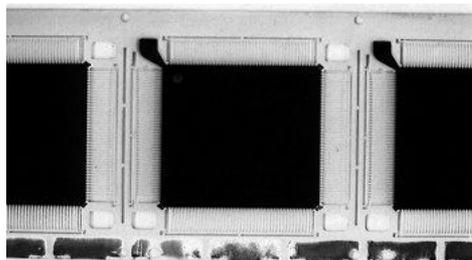
コネクター



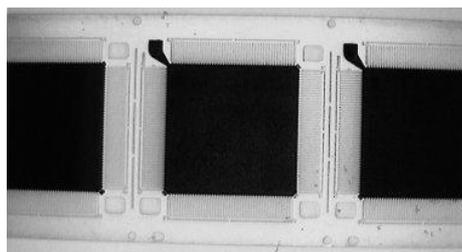
抵抗



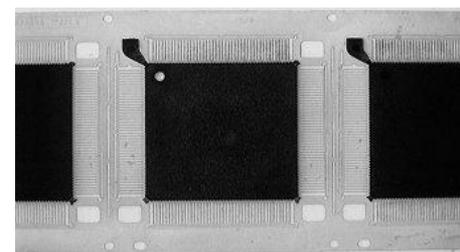
めっき部品 1 (Lead Frame)



(a) Sn-3Bi

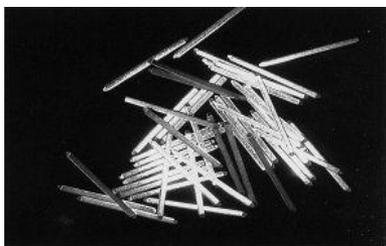


(b) Sn-1Cu

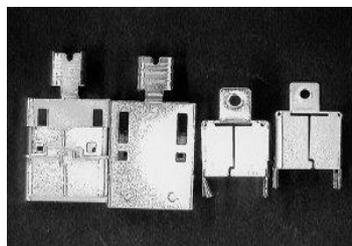


(c) Sn-3.5Ag

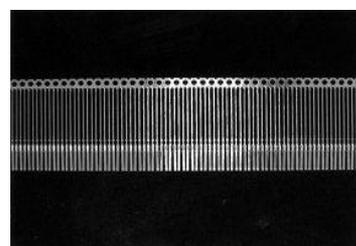
めっき部品 2 (Connector)



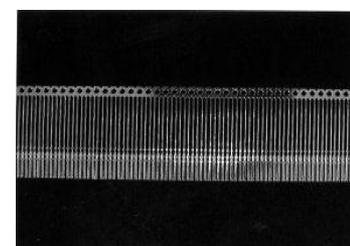
(a) Sn-1Cu Barrel Plating



(b) Sn-2Bi Barrel Plating

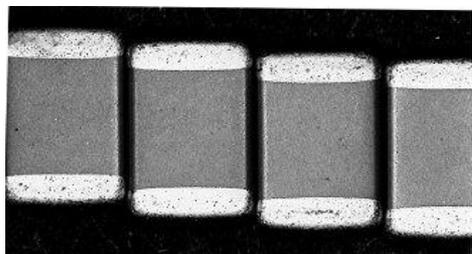


(c) Sn-1Cu R to R plating

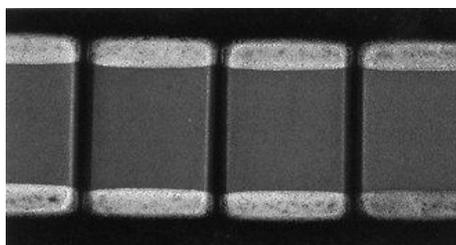


(d) Sn-2Bi R to R Plating

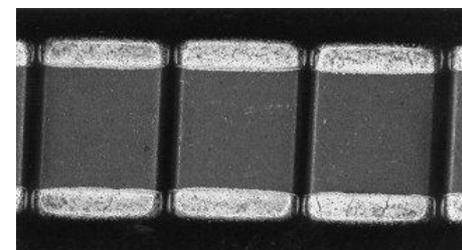
めっき部品 3 (Chip)



(a) Sn

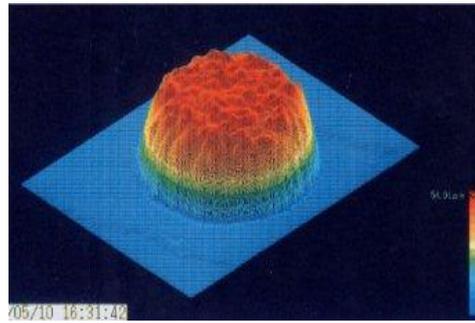
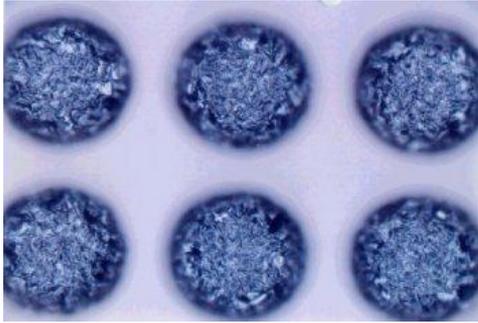


(b) Sn-2Bi

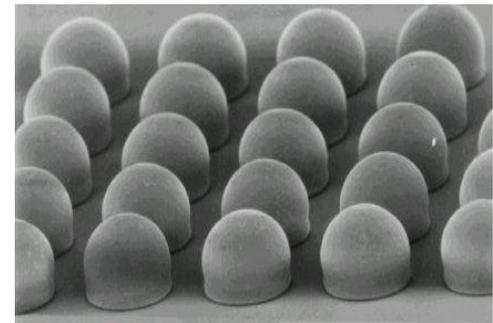


(c) Sn-1Cu

めっき部品 4 (Bump)



As Plated

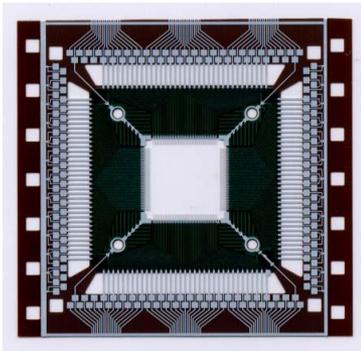


After Reflow

バンプとは・・・数十ミクロン程度の金やハンダの小さなボールを電極部分にくっつけコブのような突起電極にしたもので、半導体素子と基板上的の配線電極を接合する際に外部接続端子として実装する場合に用いる技術

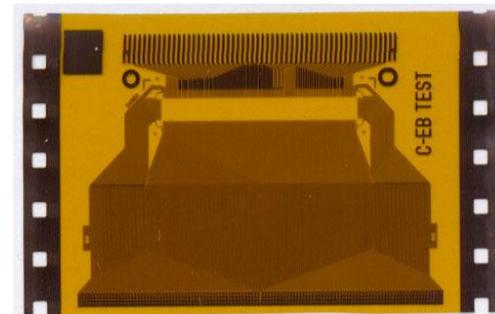
めっき部品 5 (TAB・COF)

T A B



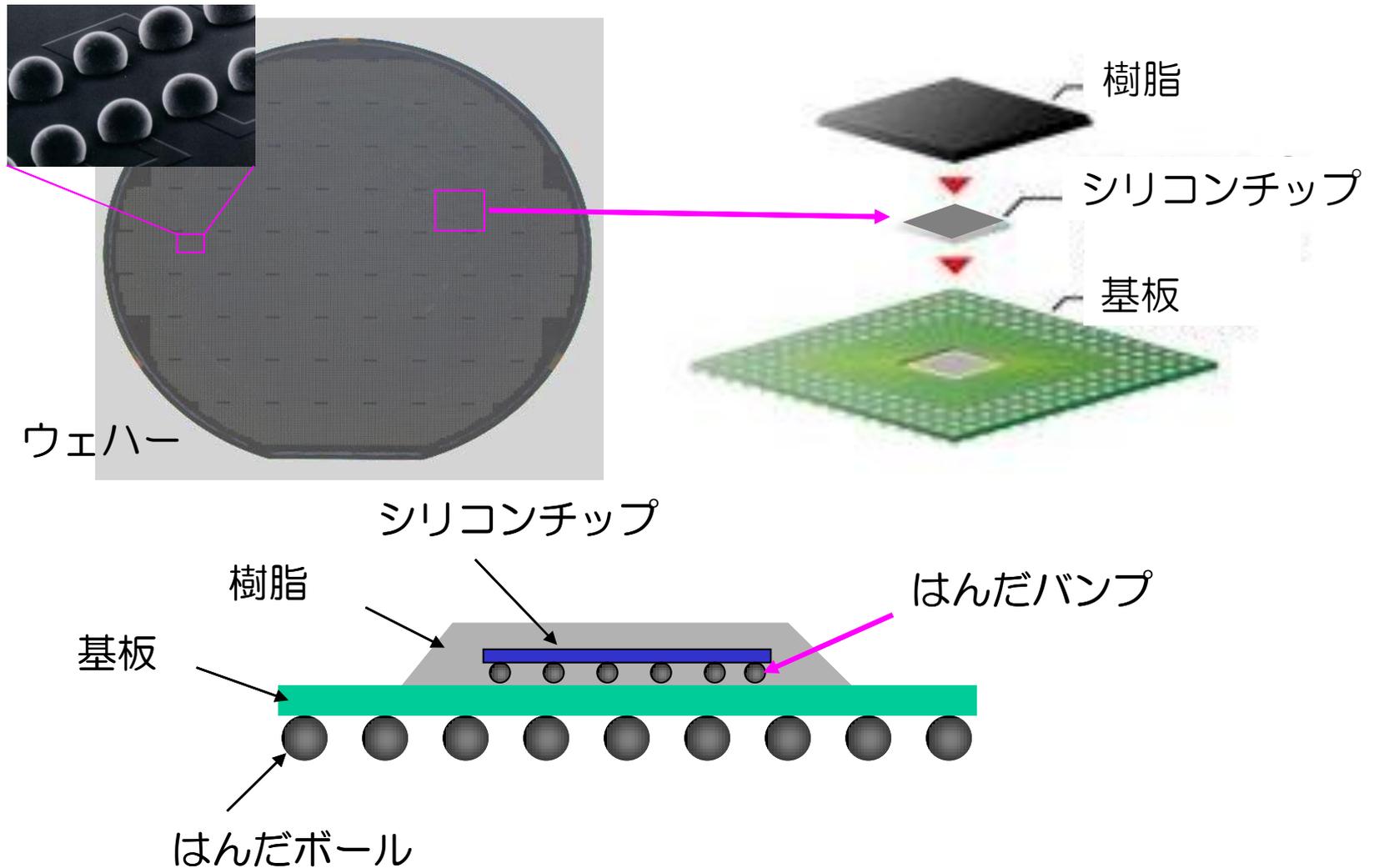
TABとは・・・テープ状のフレキシブル材料に半導体チップを搭載した回路基板で、プラズマディスプレイドライバーや液晶ドライバーに多用

C O F

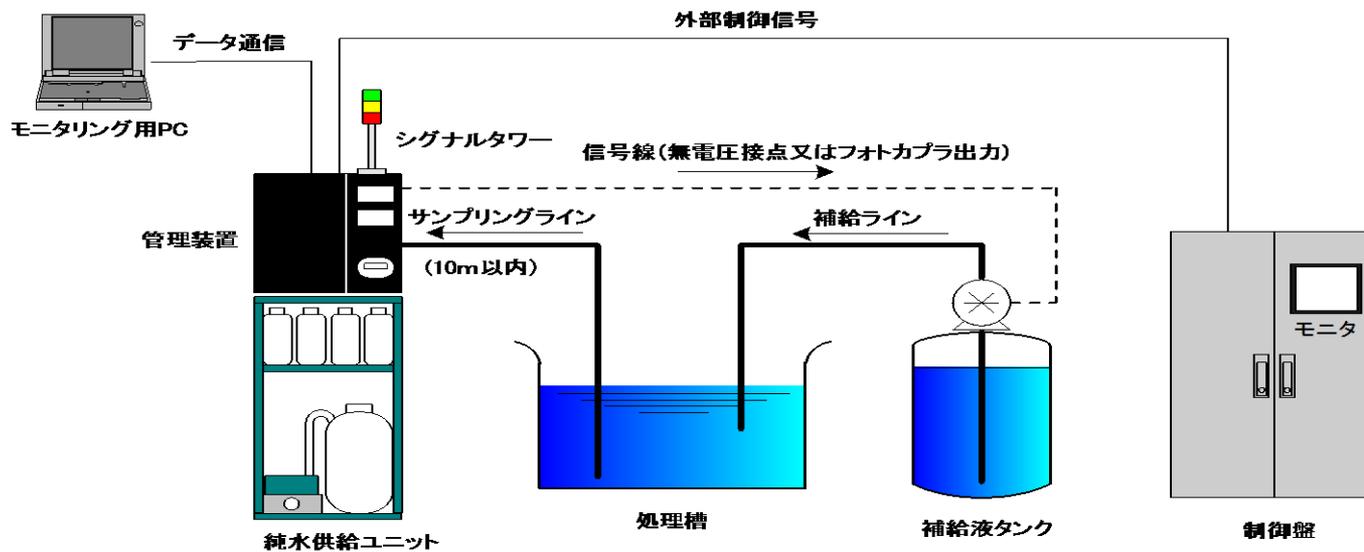


COFとは・・・液晶テレビなどのフラットパネルディスプレイのドライバー搭載用途等に使用されるファインピッチ化に対応した実装技術

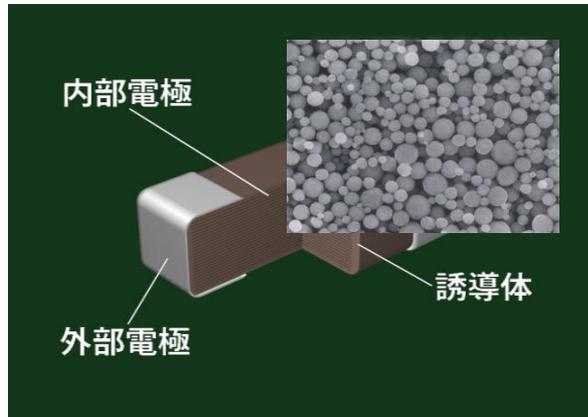
はんだバンプを使用したBGAパッケージの構造



化成処理液自動管理装置



ニッケル超微粉



自動車用化学製品



機能材料加工品

CFRP加工品



セラミック加工品



ありがとうございました

平成20年5月

石原薬品株式会社

(大証二部 4462)

URL: <http://www.unicon.co.jp>